

第 25 回 International Complement Workshop 学会記

若宮伸隆

旭川医科大学医学部微生物学講座

平成 26 年 9 月 14-18 日、ブラジル リオデジャネイロにおいて、第 25 回 ICW が開催された。次回本学会 ICW2016 を、金沢で開催することもあり、事務局長の井上氏とともに、ニューヨークで乗り継ぎながら、30 数時間をかけて、リオデジャネイロの空港に到着した。リオデジャネイロが日本から非常に遠方であったことと、ホテルや登録料の高さや治安の悪さという悪条件が重なり、残念ながら日本からの参加者は 9 名であった。

第 25 回 ICW は、Brazil, Butantan Institute の Denise Tambourgi 博士が、Chair で開催され、30 か国約 300 名が参加した。初日が、teaching day で約 80 名の若手研究者が、午前から夕方まで、教育講演を受けた。初日の夜に、学会場ホテルの 5 階にて、welcome party が催された。2 日目から、3 名の Plenary Lecture、10 の session、2 日間にわたって夕方ポスター発表が行われた。日本からは唯一、福島県立医科大学高橋実博士が、口頭発表に選出され「MASP-3 is the main converting enzyme for complement factor D」というタイトルで、素晴らしい presentation をされた。その他の口頭発表に関しても、レベルの高い基礎系演題と臨床系演題の発表が相次ぎ、活発な討論がなされた。4 日目の午

後のエクスカージョンは、Sugarloaf Mountain にホテルからバスで移動し、2 つのロープウェイにのって、リオデジャネイロを一望できる山に登った。山頂には、熱帯特有の野生の動物や鳥や昆虫がみられ、参加者の目を楽しませた。その夜は、Gala Dinner が、late Clube do Rio de Janeiro で 20 時から開かれ、旧友との語りや地元の味覚を楽しんだ。

学会の最終日に、藤田監事による ICW2016 の準備状況についての説明がなされた。石川県のサポートでいただいた、県知事からのおもてなしの DVD と日本の風景の美しいスライドが続き、ぜひ参加したいと多くの参加者からの声が寄せられた。若宮と井上事務局長は、持参した ICW2016 金沢の紹介ハガキとカレンダー一葉を、参加者に配布した。

今回の学会の印象としては、物価や治安の問題で、若手の研究者の参加が残念ながら少なかったと感じた。しかしながら、ホストの Butantan Institute から、Tambourgi 会長の娘さんを含む、多くの若手の女性研究者が参加し本学会を活発にサポートしてくれ、躍進するブラジルという印象を受けた。しかし日本からの参加者としては、通常みられるような、学会会場の外での活発な懇親会が、残念ながら治安の関係で少なかったのが、少し残念だった。